opusdei.org

属人区長の書簡 (2011年6月)

神を礼拝するという行いは、 人間を豊かにしてくれる行為 です。属人区長は、6月の書 簡においてこのように説明 し、聖体の持つ価値を深めよ うと勧めます。

2011/06/10

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

数年前、ベネディクト16世は、初聖 体の準備をしている子どもたちへの カテケージスの中で、神への礼拝に ついてこう話されました。「礼拝す るとは、イエスが私の主であると認 めることです。イエスが私の歩むべ き道を示してくださる方であると認 めることです。そして、イエスが示 す道を知り、イエスが示す道を歩む ことによって、初めて私はよく生き ることができるのだと、認めること です。ですから、礼拝するとは、こ のように言うことです。『イエス よ、私はあなたのものです。私はあ なたに従って生きていきます。私は 決してあなたとのこの友情を、あな たとのこの交わりを失いたくありま せん』。また、次のように言うこと もできると思います。礼拝すると は、何よりも、イエスを抱いて、イ エスにこう申し上げることだと。 『私はあなたのものです。あなたに お願いします。どうかいつも私と共 にいてください』。| |1|

この言葉を引用したのは、この素朴な答の中に被造物である私たちが創造主に対してとるがき態度の基本の表示されているからである。これからの数週間に祝うとにも共通することだと思います。これまで、これまで、これまで、そのです。これまで、そのです。あらゆる善を頂いているのであら。

ずいて「主を礼拝した」<u>[2]</u>と聖マタイが語っています。

この世の大人物たちが幼子イエスの 前にひれ伏し、礼拝します。信仰の 光に照らされて神ご自身を認めるこ とができたからです。逆に、罪、何 よりも大罪は、その反対です。つま り、神を神として認めることを拒 み、主のみ前にひれ伏そうとせず、 楽園でのアダムとエバのように「神 のように善悪を知るもの | [3]になろ うとするのです。人祖たちは高慢ゆ えに、神から全面的に独立すること を望みました。サタンに誘惑され て、創造主の最高権威も父なる神の 愛も認めようとしなかったのです。 これこそが、聖パウロがローマ人へ の手紙の冒頭で思い起こしているよ うに、人類の大惨事であり、あらゆ る時代の人々に起こり得ることで す。聖パウロにとって当時の異教徒 たちの過りは、「不義によって真理 の働きを妨げ」[4]、外的なしるしが 充分に示されたにもかかわらず、神を主として認めず、主を礼拝しないことでした。造られた物のすばらしさによって神を知った後、彼らは、「神としてあがめることも感謝することもせず、かえって空しい思いにふけり、心が鈍く暗くなった」[5]のです。

このことは、現代社会にはっきりと 見出される悲劇であり、少なくとも 世界の多くの場所で見られます。私 は誇張するつもりはないし、悲観主 義者でもありません。そうではなく て、これは認めざるを得ない一つの 事実であり、これに対抗して〈真 理〉における喜びを広めるよう奮い 立つべきなのです。繰り返します が、多くの社会層で礼拝の意味が失 われています。キリスト者としての 自覚を持った私たちは、超自然的か つ人間的な楽観主義を貫き、被告物 としての本来の立場にふさわしい唯 一の態度であるこの点を、人々の内

によみがえらせるために呼ばれてい るのです。人間が神を礼拝しなくな る時、歴史が教えているように、 様々な形をとって自分自身を崇める ようになります。権力、快楽、豊か さ、科学、美しさなど、それらが最 終的に神に繋がっていないなら、全 ては空しく消えてしまうのだという ことに気付かないままに。第2バチ カン公会議は、石に刻む込むかのよ うにこう断言しました。「創造主な くしては、被造物は消え失せる。| [6] ですから、新たな福音化におい てまずなすべき重要なことは、周り の人たちが礼拝の必要性とその意味 を再発見するように助けることで す。これから祝うご昇天、聖霊降 臨、そしてキリストの聖体の祭日 は、「聖体礼拝が豊かな実りをもた らすことを再発見する|最高の機会 となるでしょう。「(…) それは、 多くの実りを得るための必要条件で あり(ヨハネ15,5参照)、私たちの 使徒職が不毛な活動主義で終始する

ことなく、神の愛を証しするもので あるために必要なのです。」[7]

創立者は『鍛』の中に、「あなたの 新りが常に誠実で真実の神礼拝になるようにと願う」[8]と書いておられます。礼拝することを意識してての間に何度もそのけることでしょう。私に明るを見つけることではいるで、対しないまで、全てを祈りにし、神への至るまで、全てを祈りにし、神へのできるし、またそうしなけません。

ミサ聖祭は、何よりも、イエス・キリストを通して、イエス・キリストと一致して至聖三位一体を礼拝する 行為です。栄光の賛歌を唱えて、

〈主の大いなる栄光のゆえに〉神に 感謝します。私たちにもたらされた 恩恵ゆえにではなく、神であられ、 存在そのもの、偉大な御方だからで す。天使たちと天国の住人たちと共 に唱える感謝の賛歌において、〈聖

 今年は、多くのところで、キリストの聖体の祭日が、6月26日の聖ホセマリア・エスクリバーの記念目というのというのというのというのというのというのというのも、創定室体を気が触れんばかり日本の方にではその方にあれたがありません。この大祝日を創立るというにあり方に固く一致して過ごして過ごしてのというにあります。

さい。創立者は、天国で至聖なるイエスの至聖なる人性を絶え間なく礼拝しておられるのです。

教皇ベネディクト16世は、この日に 行われる聖体行列の構成要素の一つ を次のように要約しておられます。 「ひざまずいて主を礼拝することで す。愛によってパンの形をとられた 神なるイエス・キリストを礼拝する ことは、昔も今も偶像崇拝を退ける ための非常に効果的で基本的な手立 てです。ご聖体のみ前にひざまずく ことは自由を宣言することです。イ エスの前に頭を垂れる人は、この世 のいかなる権力に対して、それがい かに強かろうとも、膝を折ることは できないし、またそうしてはなりま せん。私たちキリスト信者がひざま ずくのは、ただ神に対して、ご聖体 に対してのみです。というのも、ご 聖体には、世界を造り、御一人子を お与えになるほどこの世を愛された (ヨハネ3,16参照) 真の唯一の神が

現存されることを私たちは知っていますし、信じているからです。」 [10]

「口よ、歌え、光栄ある聖体を。尊 き母の御子・万民の主が、世の贖い のために流されたこの聖い御血の奥 義を(賛歌『パンジェ・リン グァ』)と、聖なるホスチアの前 で、信者が昔から絶えず歌い続けて きたわけがよく分かります。隠れて おいでになる神を恭しく礼拝しなけ ればなりません(賛歌『アドロ・ テ・デヴォテ』参照)。ご聖体は童 貞マリアからお牛まれになったイエ ス・キリストご自身、苦しみを受 け、十字架につけられた御方、御脇 腹を刺し貫かれ、血と水とを流した イエス・キリストご自身であるから です(賛歌『アヴェ・ヴェルム参 照』。)「11]

聖櫃に隠れておいでになる、あるい は祭壇上に顕示された聖体のイエ ス・キリストのみ前にひざまずく 時、私たちは、ミサ聖祭で現在化さ れるカルワリのいけにえを礼拝する のです。ミサの中で礼拝するか、そ れともミサ以外のときに礼拝するか によって、聖体礼拝には何らかの対 立があるわけではありません。それ どころか、二つの方法の間には緊密 な調和と一体があります。「実際、 聖体のうちに、神の子は私たちと出 会うために来られ、私たちとご自分 を結び付けようと望みました。聖体 礼拝は感謝の祭儀の明らかな結果に 他なりません。感謝の祭儀は、それ 自体として、教会が行う、最も優れ た礼拝行為だからです (…)。ミサ 以外のときの聖体礼拝は、礼拝祭儀 そのものの中で行われる全てのこと を延長し、深めます。| [12]

これからの数週間、聖体に向けて行う典礼行為に細心の注意を払って与るようにしましょう。神のみことばに耳を傾け、聖書の内容を黙想し、

典礼聖歌を歌い、一人ひとりが聖体 の前で祈るように、努力を傾けるこ とです。そして、典礼が要求する沈 黙の時間を存分に活用して、聖なる ホスチアにおけるキリストとの、つ まり私たちの心とイエスのみ心との 内的で本物の対話をするようにしま しょう。創立者のパドレが勧められ たことを実行するのに絶好の機会で す。「センターを出入りする際の主 への挨拶にもっと愛を込めなさい。 口に出さずとも心で主に申し上げな さい。イエスよ、御身を信じ、御身 を愛しています。あなたの忠実でな かった子どもである私たち皆をお赦 し下さい…。言うことは自然に思い つくでしょう。あなたたちが3歳の 子どもであるかのように、言葉を教 えるつもりはありません。一人ひと り個人的に主に申し上げることが分 かるようになるでしょう。今までそ ういう風にできなかったしとした ら、これからできるようになるで しょう。

一度ならず、私たちが個々に祈ろうと努めている個人的な射祷について話しました。射祷とは、称賛、感嘆の叫び、喜び、愛情、熱意の表れであって、何よりも愛の表現で、矢のように心から飛び出るものです(…)。常に愛情の問題であり、献身の如何によることなのです。」
[13]

聖ホセマリアの言葉が度々記憶によ みがえることを隠すつもりはありま せん。「何と多くの栄光を神から盗 み取ったことか | と言っておられま した。至聖三位一体に対する無条件 の奉仕を、もっと熱心にすることが できたのに、と思っておられたから です。私たちは、Deo omnis Gloria 全ての栄光は神に、という熱意を燃 え立たせているでしょうか。正しい 意向で振る舞っているでしょうか。 通常のことや特別なことを、どのよ うに主に捧げているでしょうか。

6月25日はオプス・デイにおける最 初の司祭叙階を記念します。創立者 の3人の子どもであるドン・アルバ ロ、ドン・ホセ・マリア、ドン・ホ セ・ルイスが、1944年に叙階の秘跡 を受けました。3人とも職業におい て活躍し、輝かしい将来を約束され ていたにもかかわらず、創立者を通 して司祭職にお呼びになった神の声 に従うために、それを潔く退けたの です。彼らにとって、それは、一般 に苦悩を伴うものとして理解されて いる意味での〈犠牲〉ではありませ んでした。神からの新たなこの招き に、すぐさま喜んで応えたのです。 それが、オプス・デイの他の信者と 同じ献身のうちに、〈別の形〉で神 と教会、そして人々に仕えることだ と分かっていたからです。

創立者のパドレと3人の最初の司祭の取次ぎを通して主に願いましょう。同じ精神がオプス・デイ属人区でそのまま保たれ、使徒職発展に必

要なだけの司祭を擁することができますように。また娘たち息子たち皆が司祭的な魂の聖なる重さをよっっと自覚することができますように。そして、世界中の全ての教会に、世界中の主ての教会において、善き牧者の声に素直に行うにおりましょう。

私の全ての意向のために祈り続けてください。今月初めにクロアチっても訪問される教皇様のために祈ったいはされるとき、人が二人あるには父をれ以上の人と共に祈るとはられる[14]といるず聞な献身と皆体が聖なるはなるとなる。 はないように望んでいます。

手紙を書くときにはいつも、オプス・デイの歴史と私たちの個人的な

歴史における様々な記念日を取り上げたいと願っています。それは次の言葉を思い起こさなければならないからです。「神が人間のために何いを計画される時には、まず道具としてお使いになる人々のことをおえになる…、そして、その人々にくさわしい恩恵〉を与えられるのです。」[15]

心からの愛情を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2011年6月1日

[1] ベネディクト16世、2005年10月 15日、初聖体の子どもたちへのカテ ケージス。

[2] マタイ2,11.

[3] 創世記3,5.

- [4] $\Box \neg 1,18$.
- [5] 同上21.
- [6] 第2バチカン公会議、『現代世界 憲章』36。
- [7] ベネディクト16世、2010年6月 15日、ローマ教区教会会議での講演。
- [8] 『鍛』263。
- [9] 聖ホセマリア、1972年3月26日、 家族の集まりにおける覚え書き。
- [10] ベネディクト16世、2008年3月 26日、キリストの聖体の祭日の説 教。
- [11] 聖ホセマリア、『知識の香』 84。
- [12] ベネディクト16世、2007年2月 22日、使徒的勧告『愛の秘跡』88。

[13] 聖ホセマリア、1972年6月1日、 家族の集まりにおける覚え書き。

[14] マタイ18, 19参照。

<u>[15]</u> 聖ホセマリア、1934年3月19 日、『Instrucción』48。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2011nian-6yue/ (2025/12/15)